

令和7年度(2025年度) 学校関係者評価

北海道清水高等学校

1 本年度の重点目標

- ・授業改善により主体的に学ぶ喜びを感じさせ、課題について考え、他と協議しながら行動する学習指導を推進する。
- ・生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む発達支持的な生徒指導を実践する。
- ・夢を持たせ、その実現に向け持続的に取り組ませるキャリア教育を推進する。

組織名 学校運営協議会
評価者
学校運営協議会委員 11名

2 自己評価結果及び改善方策

評価の段階は、A:「十分である」、B:「概ね十分である」、C:「不十分である」、D:「改善を要する」であることを示している。

評価項目				達成状況	取組の適切さ	今後の改善方策等	自己評価内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善方策の適切さ	
大項目	中項目	番号	小項目							
教育活動方針	学習指導	1	地域と協働した探究的な学習活動を体系的に編成・実施し、課題について主体的に考え、他と協議しながら行動する力を育む指導ができたか。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・清水町役場と協働した取組、社会協議会や専門学校と連携した授業、地域のイベントや販売会への参加等の探究的な学習活動をより一層充実させる。 ・指導改善につながっている部分も見られるが、今後も評価方法の研究を推進する。 ・ICT教育推進課と連携した研修に取り組むことができた。今後もICTやAIの効果的な活用に関する研修をより一層推進する。 	A	B	A	
		2	観点別評価を効果的に実施することで、学習指導の改善と学習意欲の向上につなげることができたか。	B	B					
		3	校内研修においてICT端末を効果的に活用した実践事例を共有し、各教科の試行へとつなげることができたか。	B	A					
	評価者の意見等	高校の特色やアピール点など動画コンテンツを活かした学びをとおり、地域と協働した探究的な学習活動に取り組んでいた。令和7年度は「清流まつり」での販売に参加協力いただいたが、他の町内イベントへの参加も含めて継続していただきたい。								
	生徒指導	4	いじめ未然防止など自律した学校生活の実現に向け、執行部各委員会に自主的な取組をさせることができたか。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が中心となり「いじめ防止会議」を開催した。今後も自主的な取組ができるよう働きかける。多様な生徒に寄り添うアプローチに難しさがある。今後も工夫しながら粘り強く指導を実践していく。 ・地域と連携した取組等により社会性を育む機会が得られている。今後も社会に出てから困らないよう適切に社会性を育む指導を実践する。あらゆる教育活動を通して生徒に考えさせ規範意識を醸成していく。 	B	B	A	
		5	生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践できたか。	B	B					
		6	生徒主体の活動を推進し、社会性と適切な自己主張ができる力を育てることができたか。	B	A					
		7	学校生活のルール等の在り方を生徒自ら考えさせることを通じて、自律的な規範意識を身に付けさせる。	B	B					
	評価者の意見等	生徒主体の活動を推進し、部活動や模擬議会などの機会をとおり、社会において適切な自己主張ができる力を育てることができた。								
	進路指導	8	総合学科の特色を活かした教育活動全体を通して自己の生き方を模索させることができたか。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・系列の学びが生徒の生き方に大きな影響を与えていると考えられる。今後も取組の充実を図っていく。 ・引き続き、地域や産業界等と連携し、インターンシップ、分野別ガイダンス等の取組を一層充実させる。 ・キャリア発達アンケート、自己分析面談が一定の成果をあげており、今後も充実を図る。 	B	A	A	
9		地域や産業界等と連携した体験的な学習などを通して進路目標を定め、その実現に向けた取組を充実させることができたか。	B	A						
10		キャリア教育において、場面に応じて適切に自分の意見を主張する力を育てることができたか。	B	A						
評価者の意見等	総合学科の特色を活かした教育活動全体を通して、自己の生き方を模索させることができたと考える。商工業に携わる者として、町内の雇用につながる支援協力を少しでも形にして行きたい。									
健康・安全指導	11	感染症や熱中症予防の学びを、学校生活での健康・安全への取組につなげることができたか。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や熱中症予防への意識を高めるとともに、その学びも進んでいる。今後は自己管理ができるよう指導を充実させる。 ・校内組織の連携による情報共有は図られてきている。今後、外部機関等との連携を充実させていく。 ・校内規定の改訂や体制づくりはなされている。推進するに当たっての具体的な方策を確立していく必要がある。 	A	A	A		
	12	年次・サポート委員会・スクールカウンセラー・教務部など校内組織の連携を迅速に行うとともに、外部識者・関係機関を含めたケース会議やいじめ防止会議等を開催し課題の共有を図ることができたか。	A	B						
	13	ICTを活用し、不登校生徒等に柔軟な学びの保障や教育相談体制を充実させることができたか。	B	B						
評価者の意見等	交通安全対策をはじめ、感染症や熱中症予防、蜂や熊の発生に伴う対応など、健康・安全への取組が実施されていた。									
学校運営方針	信頼される学校づくり	14	コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を計画的に運営するとともに、次年度に向けた改善方策を明確にすることができたか。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針等を明確化するとともに、積極的な情報共有を行いながら充実を図る。 ・幼小中と連携した取組が実施されており成果を挙げている。今後、より一層充実させる。 ・地域みらい留学生が地域のイベントに関わったり、地域の食堂等のお世話になっていることが浸透しつつある。今後も町教委や地域の方々と連携を図りながら、支援体制を充実させていく。 	B	B	A	
		15	生徒による情報発信を充実させるとともに、幼小中への相互乗り入れ活動を実施することができたか。	B	A					
		16	道外生徒の国内留学受入による教育効果を、校内・地域に波及させることができたか。	B	B					
	評価者の意見等	生徒による情報発信を充実させるとともに、幼小中への相互乗り入れ活動を実施することができていた。信頼される学校づくりに向けて、地域との連携を積極的に提案し具現化できるよう努めたい。								
	校務運営	17	校務の削減・統合・整理を念頭に、新たな視点で校務にあたり、効率的な分掌運営を行うことができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により効率的な分掌運営が進められつつある。今後は業務の不均衡を解消する取組が求められる。 ・引継は分掌や年次ごとに行われている。企画調整会議の内容が分掌や年次にフィードバックするしくみをより一層工夫・改善していく。 ・発言や多様性を尊重しすぎず、取組がうまく進まない部分も見られた。また、不適切な言動により傷つく生徒も見られた。今後も粘り強く丁寧に対応していくことが求められる。 	B	B	A	
		18	引継を確実にを行うとともに、企画調整会議等で情報・課題を共有することができたか。	B	B					
		19	生徒・職員相互の発言や多様性が尊重され、学校の心理的安全性は確保されていたか。	B	B					
	評価者の意見等									
	渉外・総務・事務運営	20	家庭、PTAなどの団体や関係機関等と連携し、地域と協働した学校運営ができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや関係機関等と一定の連携がなされており、今後も時代に合わせた地域との協働に努める。 ・中学校訪問、学校案内・ポスター・リーフレットの見直し、FMラジオ番組の活用など、積極的な広報活動を行った。今後は、これらの検証をもとに効果的な方法を検討する。 ・必要な教材、教具、設備等の要望を精査しながら、適切に予算執行することができた。今後も要望に応えられるよう一層工夫する。 	A	A	A	
		21	積極的な広報活動に努め、より効果的な生徒募集を行うことができたか。	A	B					
22		職員や生徒の要望に応える効果的な予算運用や設備投資等に務めることができたか。	A	A						
評価者の意見等	家庭、PTAなどの団体や関係機関等と連携し、地域と協働した学校運営ができていた。高校振興会をより一層活用し、生徒と教員の学習環境及び生活環境を整え、地域から選ばれる高校を目指していただきたい。									
教職員の資質向上	23	新たな教育課題の解決に向けて取り組むことができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で課題を共有することに務めた。今後は課題解決が進むよう関係する分掌等に働きかける。 ・研修に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、研修成果を還元できるよう工夫する。 ・職員は常に意識して行動している。今後も効果的な研修の機会を設定するよう努める。 	A	B	B		
	24	ミニ研修報告を随時行うとともに、本校職員のアイデンティティ形成に資する校外研修を実施することができたか。	B	B						
	25	地域から信頼される清高職員であるために、自ら率先して服務規律に係る研修に努めることができたか。	A	B						
評価者の意見等	研修に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、研修成果を還元できるよう工夫しているように感じた。									